

乳幼児（特に1歳以下）のボタン電池の誤飲に注意！ ～重症化することを知らない保護者が多い?!～

ボタン電池は、子ども用玩具だけでなく、時計やタイマー、体温計、家電製品のリモコン、電卓など子どもが簡単に手にとる様々な日用品に幅広く使われています。こうした製品で子どもが遊んでいたことによる、ボタン電池の誤飲に関する事故が多数発生しています。

● 誤飲事故の症状とは

1歳前後の子供が誤飲すると、食道にとどまることが多く、消化管に接触した電池から電流が流れると、電気分解により電池の外側にアルカリ性の液体が作られ、短時間で消化管の壁に損傷が起こります。そのため早く取り出さないと、消化管に潰瘍ができたり、穴が開くなどのおそれがあります。重篤な症状を生じることがあり、場合によっては死に至るなど大変危険です。

● 誤飲事故について

消費者庁に寄せられた事故情報のうち、3歳以下の事故が98%で大半を占めており、中でも1歳児の誤飲が約6割と最も多くなっています。

保護者のボタン電池の誤飲に関するアンケートで、乳幼児が製品からボタン電池を取り出し、飲んでしまう事故が起きていることを知っている人と答えた人は、約8割でしたが、ボタン電池等の誤飲による重症事例の存在を知らない人は、全体の約6割でした。

● 専門家からのアドバイス

子どもがボタン電池を飲み込んでしまった、または鼻の穴に入れてしまったときは、一刻も早く医療機関に行くことが重要です。最悪の場合、死に至る恐れもあるので、すぐに救急車を呼びましょう。その際、電池の種類や状態を確認できれば、医師に伝えてください。飲んだかどうかははっきりしない場合でも、レントゲンを撮ればわかるので、必ず受診しましょう。

● 消費者へのアドバイス

(1)どの製品にボタン電池が使用されているかをチェックし、電池蓋が外れやすくなっていないか確認しましょう。

どの製品に使用しているか、電池蓋が壊れていないか、簡単に取り出せる構造になっていないか等を確認しましょう。必要があれば、電池蓋をテープで止めるなどの処置をしましょう。

(2)各家庭にある未使用または使用済の電池は絶対に子供の手の届かない場所に保管しましょう。

子どもの兄弟がボタン電池を取り出し、子どもの目に触れる場所においてしまうこともあります。兄弟に、下の子どもがボタン電池を飲み込んでしまう可能性があることを教えることも大事です。

(3)電池交換は、子どもの目に触れないところで行いましょう。

- 岐阜県県民生活相談センター 058-277-1003
- 輪之内町消費生活相談窓口(住民課) 69-3111, 050-5808-9600